

HUG訓練実施! 参加者に充実感

様々な事情を抱えた避難者が
集まってくる!

避難所のどこにどのように
入ってもらうか?

具体的には…

要援護者・病人・乳幼児・外国人・障がい者などさまざまな避難者への対応

他にも…

受付の設置、物品受入等、スペースの確保
各種問い合わせや苦情要望への対応 等

実感! 避難所開設訓練
自主防災実行委員会
2月21日(日)午前、柘植地区市民センターで、各区の初動リーダーが一同に集まり、避難所別(柘植小・柘植中・人権センター・小杉地区)に「避難所開設訓練」をゲームを通して研修しました。
(参加者55名)

HUGとは? (発案: 静岡県)

抱きしめるという意味の英語ですが、避難者をやさしく受け入れる避難所というイメージで使われています。

H: hinanzyo 避難所
U: unei 運営
G: game ゲーム



各避難所には初動リーダーとして、本部・総務・受入・管理・救護の担当が、また小・中学校の各避難所にはトップリーダーが設置されています。

実際の災害時には各区リーダー全員が集まることは難しいと思われませんが、今回の訓練を通じて、避難所開設のポイントを掴むことができたと思います。訓練後の振り返りによる交流(下写真)では、「防寒具類の準備とその配布、ライフラインが確保されるまでの対応、自分たちの地域特性の把握の必要性」など、様々な観点より、各班から実感のこもった感想が出されました。



ゲームは、7~8人のグループ7班に分かれて、秒刻みで次々と出される課題・案件にチームで対応していきます。(約90分間、立ったまま)



柘植地域

まちづくりだより 第161号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
(柘植地区市民センター内)

伊賀市柘植町一〇六四七番地

〒五一九-一四〇二

電話 四五・八八八〇 FAX 四五・八八八三

発行日 二〇一六(平成二十八年)三月一日(火)



春を待つ余野公園芝焼き

余野公園保勝会

今年も余野公園の芝生を焼く作業が、2月16日(火)午前、余野公園保勝会員52名が参加して行われました。

当日は早朝に、芝生広場に一面雪が降り心配しましたが、芝焼の時刻までに雪は解け、無事実施することができました。ただ芝の水分が多くきれいに燃えきれなかったのが残念でした。

余野公園約8畝のうち芝生広場の約3畝の芝生を焼きました。

芝焼は、芝生の葉や根が枯れて腐ったサッチが溜まった「サッチ層」を焼くことで、サッチ層に居る病害虫やその卵



を駆除します。そして芝焼きによつて、芝生の成長を促進し、芝生の芽吹きを一週間程度早めることができます。

できると言われていきます。4月上旬に美しい新芽が出来るうのが楽しみです。

春になれば、公園はサクラやツツジの見頃となります。

柘植地域の大切な財産である「余野公園」に多くのみなさまにご来園いただき、この貴重な自然に関心を深めていただきたいと思います。



5月8日はつつじ祭

ふれあい映画フェスタ

教育文化部会

2月18日・19日・20日の3日間、懐かしの名画を上映しました。

上映作品には、時代劇『新吾十番勝負(完結編)』・日本映画『東京物語』・ミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』の3本を用意し、上映時間帯も「夜間・昼間・休日」等に設定するなど、住民のみなさんのニーズを掘り起すとともに、趣向を凝らしてみなさんに楽しんでもらえるように心がけました。

今後、上映回数も多くしたり、各地区への出前映画上映など、より多くの方々に楽しんでもらえる方向で検討していきまのでご意見などお寄せ下さい。

柘植第二保育園

さよなら保育園のついで

教育ボランティア

今年度で「第二保育園」という名称がなくなることを偲んで、2月25日(木)午前、柘植第二保育園において表題の集いが催されました。

教育ボランティア9人が園児たちといっしょに歌や紙芝居、ふれあいあそびや紙すきをして過ごしました。お昼は食事をして楽しんでました。



あなたの時間を柘植の子どものために！

教育ボランティア募集中です。

塩麴を使った サワラの ホイールの焼き&鶏ハム

今年度最終の「男の健康料理教室」

健康の駅長(平野努)

2月13日(土)午前、いがまち保健福祉センターにて第5回男の料理教室を開催しました。

今回は、今年度最後の料理教室ということもあり、たくさんの方の参加(26人)があり、賑やかに和気あいあいと料理を作って、みんなで一緒においしくいただきました。

小杉区の松山武宏さんには、鹿肉の燻製や、麴を持ってきて頂きました。(当日のレシピはまち協事務局にて提供中)

次年度も引き続き、楽しい男の健康料理教室を全6回開催する予定です。

興味のある方は別紙回覧資料をご覧いただき、ぜひ登録・参加をして下さい。



柘植駅前市民センター 県道50号線を現地踏査

柘植駅を核とする

公共交通のあり方検討委員会

2月18日(木)午前、検討委員会ではまちづくりの基本となるインフラ整備の基礎資料づくりのために、委員15名が現地踏査を行いました。

柘植駅から市民センターに至る柘植青葉台区内を通る県道50号線は、見通しの悪いカーブや道路の勾配の大きいところがあります。また時間帯によっては大型トラックの往来も多い状況です。このような状況にもかかわらず車道と歩道の区別がなく危険な道路と考

えているところとです。
住民(柘植地域以外の方にとっても)にとつては、鉄道という公共交通へのアクセスを図る上で重要な道路であるとともに、通学の子どもたちや、観光に訪れる人々にとつての安全確保が切望される道路ではないか。



今後、柘植地域のまちづくりを進めるうえで重要な道路であり、『まちづくり計画』を改定していく際に、地域活性化を図る力ぎを握る道路として焦点化して議論を深めています。

検討委員会は、毎月の定例会を通じて、幅広い協議をしています。

伊賀市行政やJRとも連携して取り組み、駅構内のトイレや案内板の改善、駅の美化、市営駐車場情報の改善等々、小さなことから大きなことまで気づいたところから取り組んでいます。

次回定例会は、3月22日(火)午前9時30分から予定しています。「つつじ祭」とも連動して、JRを利用してお越しになるお客様をどうおもてなしするかなどの話もしています。定例会に参加できない方も多数おられますが、委員会には所属していただいております。関心をお持ちの方の参加をお待ちしております。

詳細は、まちづくり協議会事務局(西田)までお問い合わせください。

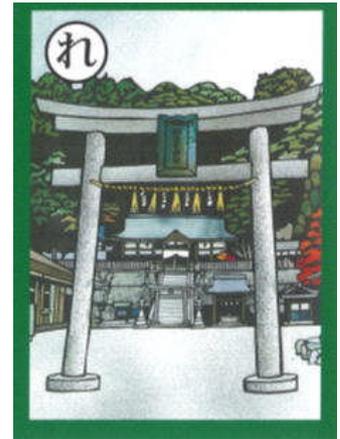
現地踏査を通じて、50号線には不適な側溝や道路隣接地の草木繁茂等、課題が多いことがわかりました。



シリーズ 柘植の歴史と民俗を学ぶ④

「柘植のホント!かるた」より

れいざん あなし つみえじんじゃ
霊山の 穴師にあった都美恵神社



都美恵神社の起源は古く2～3世紀以前ではないかと推測される。それは、「伊勢国風土記逸文」に、わが国へ渡来してきた北方民族（出雲民族）がこの柘植の地へ移住してきたことが書かれていることによる。（『まちづくりだより』144号で紹介）

＜伊賀の事志に坐す神、出雲の神（おおくにぬしのみこと 大国主命）の子出雲建子命、又の名は伊勢津彦の神、この神、昔、石もて城を造り、其の地に坐しき＞とあり、あしだん 霊山の中腹穴師谷にこれらの民族の祀っていた神であることは事実のようだ。

いつの頃からか、穴師谷にあったこの社は「穴石（穴師）神社」と呼ばれ、上柘植村の産土神として祀られていたが、寛永21年（1644）の大洪水のため社地の欠損がひどく、正保3年（1646）に現在地へ移された。その時の社殿造営の棟札が伊賀市の文化財として、都美恵神社に残されている。



明治42年に一村一社（一つの村には一つの神社）の令が出されて、旧東柘植村（上柘植、野村、中柘植、上村）にあった50余社が穴石神社（「石上神社」とも呼ばれた）に合祀された。小杉区の雨引神社は合併にともない昭和30年に鞆田神社から都美恵神社に合祀遷宮された。

大道精肉店横の石灯籠には「穴石神社」の名が刻まれて残っている。（写真）

都美恵神社の社号については、合祀以来、柘植の里の産土神としてふさわしい名前にしてはどうかという声があり、「倭姫命世記」（『まちづくりだより』157号）にある「敢都美恵宮」から「敢」をとって選定されたものである。敢都美恵宮は伊勢神宮とのゆかりもあり、また「都美恵」は「柘植」の古い呼び名でもあることから（『まちづくりだより』142号）とてもよい社号であると思う。
 （田中重之）

お雛様展

3月3日まで

女性部会

2月27日～3月3日まで、今年で第4回となる「竹から生まれたお雛様展」を市民センター和室にて開催中です。また、柘植地域全体で公共施設ほか各所で展示をしています。（別紙回覧にて連絡済）



3月3日（木）は、お茶席も用意していますので、ぜひご来場ください。（実費300円。なくなり次第終了）

◎事務局だより◎

▼3月となり、日差しは春を思わせませんが、まだまだ寒い日もありますね。▼まち協事務局のある柘植地区市民センターは南向きの事務所ですので、日差しがある日はポカポカしています。▼「まちづくりアンケート」が計できました。ホッとしています。貴重な資料として活用していきます。▼柘植小学校の黒川昌吉校長先生が、昨年度作られた資料「柘植で生まれた芭蕉さん」を改訂され、まち協へ届けてくださいました。▼この資料は、芭蕉生誕上野赤坂説に傾きがちである状況に石を投じるものとして、柘植小学校を中心に子どもたちの教育に活用されています。▼この「柘植拝野説」を地域の我々はよく理解しておきたいものです。資料をご入り用の方はまち協事務局までご連絡ください。（西田方計）